

## 学生・院生対象の工場見学（コバレントシリコン）を実施

非鉄金属業界7団体は、学生・院生を対象とした工場見学の機会を常時設けて、非鉄金属産業へのリクルート活動に対し助力と支援をしています。

この度、シリコン部会（部会長：山口 徹（株）SUMCO 社長室 担当部長）は、次の通り当該見学の支援活動を行いました。

日時： 2011年12月18日（日）13:00～16:00

場所： コバレントシリコン株式会社 新潟工場

参加者： 東京大学 工学部 化学システム工学科 横 哲（よこ あきら）  
コバレントシリコン株式会社 小島参事、大久保参事、泉妻

実施内容：

卒業研究を円滑に進めることを目的として、会社説明、技術説明後に、1時間程度の工場見学を実施、横さんの大学での研究対象になっているシリコンスラッジの実情を理解してもらうことにしました。

横さんの大学での研究は、シリコンスラッジを超臨界水により有機物分解で高純度シリコンを分離する内容であり、概要を説明してもらいました。その研究を進めるために、実際のシリコン単結晶ウェーハの製造レベルの加工工程における、シリコンスラッジの状態、回収、分離、および再利用の状況を見学してもらいました。

シリコンのリサイクルについては、経済性とのトレードオフであることも理解してもらいました。大学ではなかなか経験できない企業の製造現場を体験してもらうことで、これまでと違った視点から、横さん自身の研究の意義を深めてもらえたと思います。

このシリコンウェーハ製造工程は結晶育成、ウェーハ加工、熱処理、評価、生産、および品質が単一学問だけでなく、電気・電子工学のみならず、数学、物理、化学、化学工学、機械工学、生産工学、計測工学など複数の学問が融合したものであることを理解してもらいました。

なお、研究開発の成果は実用化までに数年くらい掛かることもあり、“筋の良い技術”、すなわち、なるべく簡単・適切な技術による製品が実用化される可能性が高いことを説明しました。

さらに、「研究への情熱が非常に大事です。加えて、エンジニアとしての探求心のみならず、人脈、体力、および適切な直感も大切です。」とお話しし、強い印象をもたれたようでした。

この見学を通じて、横さんの卒業研究の一助になることはもとより、今後、大学院での研究活動に役立ててもらえることを期待しています。

以上



工場見学の記念写真(中央が横さん、左が泉妻氏、右が大久保氏)